



鳥羽商工会議所かもめホールで4月5日、新卒就職者激励会が行われ、市内の事業所などに今春就職した92人が出席しました。

式典では、木田市長が「みんなで力を合わせて鳥羽市を活性化していきましょう」と出席した若者を激励しました。また、新卒就職者たちは「お客様に笑顔を与えられるような仕事をしたい」「よき思い出づくりの手伝いができるよう頑張りたい」などこれからの仕事に胸を弾ませながら一人ずつ抱負を述べました。

鳥羽のまちを元気にしたい



神島町で4月15日、海難殉職者を供養する歎仏法要が行われました。江戸時代に、出漁中の漁船が荒天により遭難する大きな事故が三度あり、寛政12年3月25日（西暦1800年）の事故では犠牲者が100人以上であったと語り継がれており、神島町では旧暦の3月25日に合わせて供養祭が行われています。

供養祭当日は早朝より豊穰祭が行われ、午後からは神島開発総合センターで敬老会が行われました。神島小学校の児童が「歌」や「潮騒太鼓」を披露して敬老会を盛り上げ、子どもたちの「おじいちゃんおばあちゃん、長生きしてね！」の呼びかけに、出席者のみなさんは「ありがとう！」と応えていました。

海難殉職者を追悼供養



鳥羽一丁目の鳥羽マリンターミナルを中心とした佐田浜地区が国土交通省の「みなとオアシス」の認定を受け、3月24日に同所で認定式がありました。

認定式では、国土交通省中部地方整備局より木田市長に認定証と認定旗が渡されました。

式典終了後には、ターミナル周辺で認定を祝い、海草入りマドレーヌや海鮮汁が振る舞われ、大勢の市民で賑わいました。

「みなとオアシス」の認定を受けました



JA鳥羽志摩の濱村治幸代表理事理事長が市長室を訪れ、交通安全啓蒙資材一式を寄贈しました。

JA鳥羽志摩では、地域と連携し、交通事故防止に向けた特別対策を実施することにより、安全・安心な地域づくりに貢献するため「地域における交通事故特別対策」に取り組んでおり、その一環として、カーブミラー35基、小中学校へテント21基、小学校へ絵の具セット1、100個が贈られました。

木田市長は「ご支援をいただき大変ありがたい。子どもたちにも喜んでいただけたと思う」とお礼を述べました。

安全・安心な地域づくりを願って